

## 2-2 標準仕様書

### 2-2-1 標準仕様書作成の目的

資機材の標準仕様書は、資機材を調達する際、重要な入札図書となり得るものであり、公平適正なものでなければならない。

標準仕様書は、要請資機材の様々な仕様諸元を参考にし、製造メーカー全ての仕様を網羅する必要がある。その際、特に注意しなければならない点は、各製造メーカーの対象モデルの能力等をどこからどこまでを対象にするかである。

本資料は、対象資機材29機種 169クラスの仕様能力区分を明らかにした上で、必要な仕様諸元項目を対象に、各製造メーカーモデルの仕様を網羅した標準仕様書を作成することを目的とする。

### 2-2-2 標準仕様書作成基準

標準仕様書作成にあたって、特に留意しなければならないことは、同等クラスの製造メーカーモデルの選定及び主要諸元の採用値である。

基本的に標準仕様書は、前章の能力別メーカー別主要諸元一覧表の採用値と一致するものである。ただし、主要諸元項目は、特に入札図書として必要な項目のみを選定し、採用値を併記したものである。調査対象分野の3分野について作成基準は同様とし、以下の基準に基づき作成した。

- ① 能力別メーカー別主要諸元一覧表作成時に選定したモデルが応札できる仕様の幅にする。
- ② 採用仕様諸元は、入札に必要な最低限の項目のみとする。
- ③ 特定装備品等は、その都度記載することとし、本標準仕様書には記載しない。

参考として、前項の資料編から抜粋した能力別メーカー別主要諸元一覧表

① 農業機械分野	6種類
② 建設土木機械分野	8種類
③ 車輦分野	6種類
合 計	20種類

上記20種類の標準仕様書を資料編から抜粋する。

標準仕様書

農業機械分野

建設土木用機械分野

車輛分野



## 標準仕様書

\*\*\*\* 自動脱穀機/作業能率1,000~1,200Kg/h /ディーゼル定置式 \*\*\*\*

扱胴幅	: 400mm	以上	
扱胴回転数(負荷時rpm)	: 稲400	以上, 麦500	以上
作業能率	: 1,000Kg/h	以上	
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル		
排気量	: 300cc	以上	
最大出力	: 5ps	以上	
冷却方式	: ラジエター式		
始動方式	: 手動式		
燃料タンク容量	: 5ℓ	以上	
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式		
特定装備品	:		
予備部品	:		

標準仕様書

\*\*\* 歩行用トラクター/7~8馬力級/ロータリ耕運式 \*\*\*

ロータリ駆動方式	: センタードライブ方式	
耕幅	: 480mm	以上
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル	
最大出力	: 7ps	以上
排気量	: 350cc	以上
燃料タンク容量	: 6ℓ	以上
かじ取装置	: ルーフ式又はA-式	
主クラッチ	: 乾式多板	
ブレーキ	: 拡張式	
冷却装置	: ラジエーター方式	
変速段数 前進	: 6	以上
後進	: 2	以上
耕	: 2	以上
タイヤ	: M-カ標準	
標準付属品	: 標準工具等M-カ公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

## 標 準 仕 様 書

\*\*\*\* 歩行用トラクター/12馬力級/ロータリー耕運式 \*\*\*\*

ロータリー駆動方式	: センタードライブ方式	
耕幅	: 600mm	以上
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル	
最大出力	: 11ps	以上
排気量	: 580cc	以上
燃料タンク容量	: 10ℓ	以上
かじ取装置	: ルーフ式	
主クラッチ	: 乾式多板	
ブレーキ	: 拡張式	
冷却装置	: ラジエーター方式	
変速段数 前進	: 6	以上
後進	: 2	以上
耕	: 4	以上
タイヤ	: メーカー標準	
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

標準仕様書

\*\*\*\* 動力散布機/タンク容量13~14ℓ 級/背負式 \*\*\*\*

乾燥重量	: 13kg	以下
エンジン種類	: 空冷・2サイクル・ガソリン	
始動方式	: リコイルスターター	
排気量	: 35.0cc	以上
燃料タンク容量	: 0.8ℓ	以上
ブロー-空気吐出量	: 8.0m <sup>3</sup> /min	以上
最大粉剤吐出量	: 3.5kg/min	以上
最大薬液吐出量	: 3.5ℓ/min	以上
最大粒剤吐出量	: 10kg/min	以上
標準付属品	: X-A式ミストノズル等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

## 標準仕様書

\*\*\*\* 人力噴霧機/タンク容量13~16ℓ級/背負式半自動 \*\*\*\*

乾燥重量	: 7kg	以下
タンク材質	: ポリエチレン又はステンレス	
ノズル(頭数)	: 2頭口	
常用圧力	: 3.0kg/cm <sup>2</sup>	以上
常用吐出量	: 0.7ℓ/min	以上
標準付属品	: ストレーナー、コック等	
	: メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	



標準仕様書

\*\*\*\* トラクタ/25馬力級/2輪駆動 \*\*\*\*

エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル
" 排気量	: 1,100cc 以上
" 出力	: 24ps 以上
エアークリーナ	: 乾式又は湿式
燃料タンク容量	: 19ℓ 以上
かじ取装置	: ホールスクレー又はパワーステアリング
クラッチ	: 乾式単板
ブレーキ	: 拡張式又は湿式ディスク
最小回転半径	: 2.5m 以内
最低地上高	: 295mm 以上
変速段数 前進(段)	: 8 以上
" 後進(段)	: 2 以上
タイヤ	: メーカー標準
PTO 変速段数	: 1 以上
" 出力	: 19ps 以上
作業機昇降装置	: 油圧制御・ポジションコントロール
" 懸架方式	: 3点リンク/JIS I
" 揚力	: 530kg 以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式
特定付属品	:
予備部品	:

標準仕様書

\*\*\*\* モータグレーダ / 135馬力級 / リフト型 / 土工板, スカリファイ, 日除け付き \*\*\*\*

エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル		
定格出力	: 135ps	以上	
燃料タンク容量	: 200ℓ	以上	
動力伝達機構	: ハイトリフト変速機又は直接パワーリフト変速機		
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式		
変速段数 前進(段)	: 5	以上	
"    後進(段)	: 5	以上	
車輪(タイヤ)	: メカ標準タイヤ装備		
前輪タイヤ	: 1軸2本		
後輪タイヤ	: 2軸4本		
走行速度 前進	: 低速4.0km/h	以下, 高速40km/h	以上
"    後進	: 低速4.5km/h	以下, 高速40km/h	以上
前輪リーング角度	: 左右各20度		
最小回転半径	: 11m	以内	
登坂能力	: 25度	以上	
土工板装置	: 油圧制御式		
寸法(巾×高)	: 巾3,700mm	以上	
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各2,000mm	以上	
持上高	: 400mm	以上	
バンクカット角	: 90度		
スカリファイ	: 油圧制御式		
シャック本数	: 9本	以上	
標準付属品	: 標準工具等メカ公表所定品1式		
特定装備品	:		
ライティング装置	: メカ公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式		
運転席日除け	: キャンバースキヤノビ		
予備部品	:		

標準仕様書

\*\*\*\* モータレータ / 150馬力級 / リフト型 / 土工板, スカリフアイ, 日除け付き \*\*\*\*

エンジン種類	:	水冷・4サイクル・ディーゼル	
定格出力	:	150ps	以上
燃料タンク容量	:	280ℓ	以上
動力伝達機構	:	ハイトリフト変速機又は直接ハイトリフト変速機	
主ブレーキ装置	:	油圧・後4輪制動式	
変速段数 前進(段)	:	5	以上
"    後進(段)	:	5	以上
車輪(タイヤ)	:	メカ標準タイヤ装備	
前輪タイヤ	:	1軸2本	
後輪タイヤ	:	2軸4本	
走行速度 前進	:	低速4.0km/h	以下, 高速40km/h 以上
"    後進	:	低速4.5km/h	以下, 高速50km/h 以上
前輪リーニグ角度	:	左右各20度	
最小回転半径	:	12m	以内
登坂能力	:	20度	以上
土工板装置	:	油圧制御式	
寸法(巾×高)	:	巾3,700mm	以上
最大横送り長さ(左×右)	:	左右各2,000mm	以上
持上高	:	400mm	以上
バックカッタ角	:	90度	
スカリフアイ	:	油圧制御式	
シャック本数	:	9本	以上
	:		
標準付属品	:	標準工具等メカ公表所定品1式	
特定装備品	:		
ライティング装置	:	メカ公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式	
運転席日除け	:	キャンバースキヤンビィ	
予備部品	:		

標準仕様書

\*\*\*\* モータローダ/80馬力級/7-ティキュレット型/土工板, スカリフアイ, 日除け付き \*\*\*\*

車体屈折角度	: 左右各25度	以上
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル	
定格出力	: 75ps	以上
燃料タンク容量	: 90ℓ	以上
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式	
変速段数 前進(段)	: 5	以上
"    後進(段)	: 4	以上
車輪(タイヤ)	: メーカー標準タイヤ装備	
前輪タイヤ	: 1軸2本	
後輪タイヤ	: 2軸4本	
走行速度 前進	: 低速4.0km/h	以下, 高速30km/h 以上
"    後進	: 低速5.0km/h	以下, 高速30km/h 以上
前輪リーニング角度	: 左右各18度	以上
最小回転半径	: 6.5m	以内
登坂能力	:	
土工板装置	: 油圧制御式	
寸法(巾×高)	: 巾3,100mm	以上
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各1,100mm	以上
持上高	: 300mm	以上
バンクカット角	:	
スカリフアイ	: 油圧制御式	
シャック本数	: 6本	以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
ライティング装置	: メーカー公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式	
運転席日除け	: キャンバースキヤンビィ	
予備部品	:	

## 標準仕様書

\*\*\*\* モータグレーダ / 110馬力級 / アーティキュレート型 / 土工板, スカリフアイ, 日除け付き \*\*\*\*

車体屈折角度	: 左右各27度	以上
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル	
定格出力	: 110ps	以上
燃料タンク容量	: 200ℓ	以上
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式	
変速段数 前進(段)	: 5	以上
"    後進(段)	: 5	以上
車輪(タイヤ)	: メーカー標準タイヤ装備	
前輪タイヤ	: 1軸2本	
後輪タイヤ	: 2軸4本	
走行速度 前進	: 低速4.5km/h	以下, 高速45km/h 以上
"    後進	: 低速4.5km/h	以下, 高速45km/h 以上
前輪リーニング角度	: 左右各18度	以上
最小回転半径	: 6.5m	以内
登坂能力	:	
土工板装置	: 油圧制御式	
寸法(巾×高)	: 巾3,100mm	以上
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各1,400mm	以上
持上高	: 350mm	以上
バンクカット角	: 60度	以上
スカリフアイ	: 油圧制御式	
シャック本数	: 7本	以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
ライティング装置	: メーカー公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式	
運転席日除け	: キャンバースキャビイ	
予備部品	:	

標準仕様書

\*\*\*\* モータグレーダ / 135馬力級 / Y-ティキェルト型 / 土工板, スカリフアイ, 日除け付き \*\*\*\*

車体屈折角度	: 左右各27度	以上	
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル		
定格出力	: 135ps	以上	
燃料タンク容量	: 200ℓ	以上	
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式		
変速段数 前進(段)	: 5	以上	
"    後進(段)	: 5	以上	
車輪(タイヤ)	: メーカー標準タイヤ装備		
前輪タイヤ	: 1軸2本		
後輪タイヤ	: 2軸4本		
走行速度 前進	: 低速4.0km/h	以下, 高速40km/h	以上
"    後進	: 低速4.5km/h	以下, 高速40km/h	以上
前輪リーニング角度	: 左右各20度		
最小回転半径	: 7.0m	以内	
登坂能力	:		
土工板装置	: 油圧制御式		
寸法(巾×高)	: 巾3,700mm	以上	
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各2,000mm	以上	
持上高	: 400mm	以上	
バンクカット角	: 90度		
スカリフアイ	: 油圧制御式		
シャック本数	: 9本	以上	
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式		
特定装備品	:		
ライティング装置	: メーカー公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式		
運転席日除け	: キャンバースキヤンビレイ		
予備部品	:		

## 標準仕様書

\*\*\*\* モーターレータ / 150馬力級 / 7-ティキレット型 / 土工板, スカリファイ, 日除け付き \*\*\*\*

車体屈折角度	: 左右各25度
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル
定格出力	: 150ps 以上
燃料タンク容量	: 200ℓ 以上
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式
変速段数 前進(段)	: 5 以上
"    後進(段)	: 5 以上
車輪(タイヤ)	: メーカー標準タイヤ装備
前輪タイヤ	: 1軸2本
後輪タイヤ	: 2軸4本
走行速度 前進	: 低速4.0km/h 以下, 高速40km/h 以上
"    後進	: 低速4.5km/h 以下, 高速40km/h 以上
前輪リーニンク角度	: 左右各20度
最小回転半径	: 8.0mm 以内
登坂能力	:
土工板装置	: 油圧制御式
寸法(巾×高)	: 巾3,700mm 以上
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各1,950mm 以上
持上高	: 380mm 以上
バンクカット角	: 90度
スカリファイ	: 油圧制御式
シャック本数	: 9本 以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式
特定装備品	:
ライティング装置	: メーカー公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式
運転席日除け	: キャンバースキヤノビ
予備部品	:

標準仕様書

\*\*\*\* モーター/180馬力級/7-ティキョート型/土工板, スカリアイ, 日除け付き \*\*\*\*

車体屈折角度	: 左右各25度	以上
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル	
定格出力	: 180ps	以上
燃料タンク容量	: 300ℓ	以上
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式	
変速段数 前進(段)	: 5	以上
"    後進(段)	: 5	以上
車輪(タイヤ)	: メーカー標準タイヤ装備	
前輪タイヤ	: 1軸2本	
後輪タイヤ	: 2軸4本	
走行速度 前進	: 低速4.0km/h	以下, 高速40km/h 以上
"    後進	: 低速4.0km/h	以下, 高速40km/h 以上
前輪リーニング角度	: 左右各20度	
最小回転半径	: 8.0m	以内
登坂能力	:	
土工板装置	: 油圧制御式	
寸法(巾×高)	: 巾4,000mm	以上
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各2,100mm	以上
持上高	: 350mm	以上
バンクカット角	: 90度	
スカリアイ	: 油圧制御式	
シャフト本数	: 11本	以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
ライティング装置	: メーカー公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式	
運転席日除け	: キャンバースキヤビ°イ	
予備部品	:	



## 標 準 仕 様 書

\*\*\*\* モーターレータ / 200馬力級 / Y-ティキユレト型 / 土工板, スカリファイ, 日除け付き \*\*\*\*

車体屈折角度	: 左右各 25度	以上
エンジン種類	: 水冷・4サイクル・ディーゼル	
定格出力	: 200ps	以上
燃料タンク容量	: 400ℓ	以上
主ブレーキ装置	: 油圧・後4輪制動式	
変速段数 前進(段)	: 6	以上
"    後進(段)	: 6	以上
車輪(タイヤ)	: メカ標準タイヤ装備	
前輪タイヤ	: 1軸2本	
後輪タイヤ	: 2軸4本	
走行速度 前進	: 低速4.0km/h	以下, 高速40km/h 以上
"    後進	: 低速4.5km/h	以下, 高速40km/h 以上
前輪リーニク角度	: 左右各 20度	以上
最小回転半径	: 8.0m	以内
登坂能力	: 25度	以上
土工板装置	: 油圧制御式	
寸法(巾×高)	: 巾4,300mm	以上
最大横送り長さ(左×右)	: 左右各 2,300mm	以上
持上高	: 400mm	以上
バンクカット角	: 90度	
スカリファイ	: 油圧制御式	
シャック本数	: 9本	以上
標準付属品	: 標準工具等メカ公表所定品1式	
特定装備品	:	
ライティング装置	: メカ公表の照明灯・注意灯・ミラー等1式	
運転席日除け	: キャンパースキャノビイ	
予備部品	:	

## 標 準 仕 様 書

\*\*\*\* ピックアップ / 排気量 2.5ℓ クラス / 2～3人乗り / 最大積載量 850kgクラス \*\*\*\*

車両形状	: ノーマルコントロール	
駆動形式	: 4×4	
ハンドル	: 右および左	
エンジン形式	: 4気筒・水冷・気筒・ディーゼル直列	
馬力	: 72ps	以上
トルク	: 15kg-m	以上
排気量	: 2,400cc	以上
登坂能力 (tanθ)	: 46%	以上
最小回転半径	: 6.6m	以下
最低地上高	: 220mm	以上
軸距	: 2,680mm	以上
乗車定員	: 2～3人	
最大積載量	: 750kg	以上
許容車両総重量	: 2,450kg	以上
トランスミッション	: 4速又は5速、手動タイプ	
ステアリング	: ホールナット	
ブレーキ(前/後)	: 油圧式ディスク/油圧式ドラムタイプ	
タイヤ(前/後)	: 6.00-14-6/6.50-14-8 以上	
燃料タンク	: 50ℓ	以上
荷台長さ(内寸)	: 1,800mm	以上
幅( )	: 1,460mm	以上
高さ( )	: 400mm	以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

## 標 準 仕 様 書

\*\*\*\* ビックアップ / 排気量 2.5ℓ クラス / 5人乗り / タフなキャブ \*\*\*\*

車両形状	: ノーマルコントロール	
駆動形式	: 4×4	
ハンドル	: 右および左	
エンジン形式	: 4バルブ・水冷・4気筒・ディーゼル直列	
馬力	: 70ps	以上
トルク	: 15kg-m	以上
排気量	: 2,400cc	以上
登坂能力 (tanθ)	: 66%	以上
最小回転半径	: 6.7m	以下
最低地上高	: 220mm	以上
軸距	: 2,850mm	以上
乗車定員	: 5人	
最大積載量	: 500kg	以上
許容車両総重量	: 2,450kg	以上
トランスミッション	: 5速, 手動タイプ	
ステアリング	: ホールナット	
ブレーキ (前/後)	: 油圧式ディスク / 油圧式ドラムタイプ	
タイヤ (前/後)	: 6.50-15-6 / 6.50-15-8	以上
燃料タンク	: 65ℓ	以上
荷台長さ (内寸)	: 1,405mm	以上
幅 ( " )	: 1,465mm	以上
高さ ( " )	: 405mm	以上
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

標準仕様書

\*\*\*\* ピックアップ / 排気量4.0ℓクラス/3人乗り \*\*\*\*

車両形状	: ノーマルコントロール
駆動形式	: 4×4
ハンドル	: 右および左
エンジン形式	: 4気筒・水冷・6気筒・ディーゼル直列
馬力	: 100ps 以上
トルク	: 24kg-m 以上
排気量	: 3,900cc 以上
登坂能力(tanθ)	: 80% 以上
最小回転半径	: 6.7m 以下
最低地上高	: 230mm 以上
軸距	: 2,970mm 以上
乗車定員	: 3人
最大積載量	: 535~1,000kg
許容車両総重量	: 3,035kg 以上
トランスミッション	: 4速又は5速, 手動タイプ
ステアリング	: ホールナット
ブレーキ(前/後)	: 油圧式ディスク又はドラム/油圧式ドラムタイプ
タイヤ(前/後)	: 7.50-16-8 以上
燃料タンク	: 90ℓ 以上
荷台長さ(内寸)	: 2,155mm 以上
幅( )	: 1,590mm 以上
高さ( )	: 400mm 以上
標準付属品	: 標準工具等メカ公表所定品1式
特定装備品	:
予備部品	:

## 標 準 仕 様 書

\*\*\*\* ステーションワゴン/排気量2.5ℓクラス/5～8人乗り \*\*\*\*

車両形状	: 1-7軸コントロール	
駆動形式	: 4×4	
ハンドル	: 右および左	
エンジン形式	: 4気筒・水冷・4気筒・ディーゼル直列	
馬力	: 70ps	以上
トルク	: 15.0kg-m	以上
排気量	: 2,400cc	以上
登坂能力(tanθ)	: 50%	以上
最小回転半径	: 5.9m	以下
最低地上高	: 200mm	以上
軸距	: 2,300mm	以上
乗車定員	: 5～8人	
最大積載量	: -kg	以上
許容車両総重量	: 2,150～2,450kg	
トランスミッション	: 4速又は5速,手動タイプ	
ステアリング	: ホールナット	
チービーステアリング(前/後)	: 油圧式,チービーステアリング又はドラムタイプ	
タイヤ(前/後)	: 6.00-16-4/6.00-16-6	以上
燃料タンク	: 60ℓ	以上
室内長さ(内寸)	: mm	以上
幅(内寸)	: 1,350mm	以上
高さ(内寸)	: 1,160mm	以上
扉	: 3又は4	
荷台長さ(後ろシートを倒した場合)	:	
標準付属品	: 標準工具等メーカー公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	: 本体FOB価格の %相当の機械部品およびホールナット類	

標準仕様書

\*\*\*\* ステーションワゴン/排気量4.0ℓクラス/5～9人乗り \*\*\*\*

車両形状	: ノーマルコントロール	
駆動形式	: 4×4	
ハンドル	: 右および左	
エンジン形式	: 4バルブ・水冷・6気筒・直列	
馬力	: 105ps	以上
トルク	: 24kg-m	以上
排気量	: 3,900cc	以上
登坂能力(tanθ)	: 80%	以上
最小回転半径	: 6.7m	以下
最低地上高	: 200mm	以上
軸距	: 2,730mm	以上
乗車定員	: 5～9人	
最大積載量	: -kg	以上
許容車両総重量	: 2,800kg	以上
トランスミッション	: 4速又は5速,手動タイプ	
ステアリング	: ホールナット	
ブレーキ(前/後)	: 油圧式,ディスク又はドラム/油圧式ドラムタイプ	
タイヤ(前/後)	: 7.00-15-6	以上
燃料タンク	: 90ℓ	以上
室内長さ(内寸)	: 1,760mm	以上
幅( )	: 1,425mm	以上
高さ( )	: 1,160mm	以上
扉	: 5	
荷台長さ(第3列を倒した場合)	:	
標準付属品	: 標準工具等メカ公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

標準仕様書

\*\*\*\* リヤダンプトラック/最大積載量4トンクラス/キャブ形式FC/4×2 \*\*\*\*

車両形状	: フォワードコントロール	
駆動形式	: 4×2	
ハンドル	: 右および左	
エンジン形式	: 4サイクル・水冷・4or6気筒・ディーゼル直列	
馬力	: 110ps	以上
トルク	: 27kg-m	以上
排気量	: 4,000cc	以上
登坂能力 (tanθ)	: 28%	以上
最小回転半径	: 6.5m	以下
最低地上高	: 190mm	以上
軸距	: 2,800mm	以上
乗車定員	: 2~3人	
最大積載量	: 4,000~5,000kg	
許容車両総重量	: 8,500~9,500kg	
トランスミッション	: 5速又は6速,手動タイプ	
ステアリング	: ホールネット	
ブレーキ(前/後)	: 油圧式又は空気油圧複合式,ドラムタイプ	
タイヤ(前/後)	: 7.50-16-12	以上
燃料タンク	: 85ℓ	以上
ボデー形式	: フラット三方開	
長さ(内寸)	: 3,000mm	以上
幅( )	: 1,900mm	以上
高さ( )	: 350mm	以上
容積	: 2.5m <sup>3</sup>	以上
ダンプ角度	: 60°	以上
ボンプ形式	: キヤブ	
標準付属品	: 標準工具等メカ公表所定品1式	
特定装備品	:	
予備部品	:	

## 2-3 資機材の統一価格

### 2-3-1 資機材統一価格設定の目的

従来、資機材等調査では要請資機材1点1点について各製造メーカーの同等クラスのモデルを選定し、見積依頼を行い、提出された見積金額（FOB）の最低金額をFOB金額として採用し、概算事業費の積算を行って来た。しかしながら、その結果として同等モデルのFOB価格が仕向地・見積数量・見積依頼時期により異なっている案件が多く見られるようになり、案件実施のための協議に支障を来たすような状況にまで至った。

そこで、概算事業費を積算する資機材費のFOB価格を統一的に設定することにより、同等資機材能力のFOB価格を仕向地・数量・船積時期・代理店の有無・販売実績・アフターサービス条件の内容・他社との競合関係等といった見積基本要素とは全く関係なく、いつも同額のFOB金額として取扱うことが可能となる。

また、調査を担当する者あるいは事業実施の各段階で必要となる価格積算作成者全てが同一価格の資料を参考にするとところから横並びの相異が生じないことになる。

資機材統一価格設定のもう一つの目的は、資機材調達段階で設定したE/N金額と、商社・メーカー等が入札時に提出する応札金額との差、つまり、残余金の過大な発生をおさえることと、さらには統一価格の精度を高め、E/N金額と落札金額との差を10%内に納めることを可能にしていくためでもある。

### 2-3-2 統一価格設定基準

資機材等調査成果品の調書に記載適用中の資機材単価は、当初、原則的に各資機材製造メーカー3社以上に対して同一仕様と同一所定条件によるFOB日本港迄の見積依頼書を発信し、所定の期日迄に到着した見積回答書のうち、適正仕様で記載内容妥当なものうち、最低単価を適用単価としていた。その後、下記の理由から昭和63年度より、各製造メーカーより回答のあった各見積単価を合計、その合計額を集計件数で除した値を見積平均単価とし、この平均単価に所定の「裁定率」を乗じて算定した価格を「統一単価（FOB日本港）」として適用し、この方法は次年度更に改善向上する事にしていった。

元来、各製造メーカーの海外向け資機材見積価格（FOB日本港）は、同一



仕様であっても仕向国や使用地域等によって僅少差異の同一価格範囲内に納まる事は殆ど無い。その理由は資機材の販売実績・代理店の有無・見積数量・使用される地域・アフターサービスの過少・その他各種の理由によるものである。

従って、各要請案件毎の見積調査による同一仕様資機材の回答価格（FOB日本港）には毎回差異があり、この最低と最高の見積単価を集計すると、同じ製造メーカーでも仕向国の違いによっては略々倍程度の差異が生じていた。

このため、同一仕様の資機材については仕向国の如何に関わらず、FOB日本港に於ける「統一単価」の必要性が望まれてきた。

さらに、成果品調書の作成段階における各製造メーカーの見積回答単価は、入札時点の購買単価では無く「予算単価」である事を承知しているため、やや多目の見積単価を回答しているようである。これは当該要請案件の落札決定時に於ける実勢単価に比べ、幾つかの品目には相当な差異がある等の事情によって証明されている。

そのためか、「統一単価」を基礎にした成果品調書の概算価格には、その作成時点から数ヶ月以後に実施する当該資機材調達時の国際入札時等の落札決定価格に対して「価格差異は10%以内に留まるように」という算定精度も望まれていた。

以上の結果、昭和63年度は下記の認識と算定要領によって統一単価を試行してきた。

- ① 毎回差異のある製造メーカーの見積回答単価を一定期間に限って統一するには、その資機材の各見積単価より平均見積単価を算定する。
- ② しかし各製造メーカーの見積回答単価は入札時点の実勢単価に比べて割高である。
- ③ 見積回答単価より算出した平均見積単価を実勢単価に換算するためには、「裁定率」を乗じ、その算定結果の値を「統一単価」とする事とした。

### 2-3-3 統一価格表

分野別に設定された統一単価は以下のとおりである。

農業機械分野	……………	自動脱穀機等	36品目
建設土木用機械分野	……………	モータグレーダ等	79品目
車 輛 分 野	……………	ピックアップ車等	51品目
		合 計	<u>166品目</u>

※ 建設土木用機械分野における調査対象資機材数と統一単価設定資機材数に相違があるのは、以下の理由による。

- ① モーターグレーダは、リジッド型及びアーティキュレート型の2種類のフレーム形式を調査対象資機材としたが、統一単価を両者共通と考え、各々の統一単価を同額とした。
- ② ブルドーザは、ダイレクトドライブ式及びトルクコンバート式の変速方式また、アングルブレード及びストレートチルトブレード等の土工板の種類により調査対象資機材を分けているが、統一単価は、変速方式土工板の種類に関係なくエンジン定格出力のみで統一単価を設定した。
- ③ 統一単価設定資機材ホイールローダ、プラント類等は標準仕様書作成調査対象機材とはしていないが、資機材等調査の中から対象資機材を選び出し、各製造メーカーからの見積金額を参考にして統一単価は設定した。

昭和63年度 主要機材の統一単価表

[農業機械]

(単位：千円)

主要機材と仕様	統一単価
1. ディーゼルエンジン付定置式自動脱穀機 (作業能率1,000~1,200kg/時間)	250
2. 歩行用トラクター (耕うん機・7~8馬力級・ディーゼル)	290
3. 歩行用トラクター (耕うん機・12馬力級・ディーゼル)	410
4. 背負い式動力散布機 (タンク容量13~14ℓ級・空冷2サイクルガソリン)	36
5. 背負い型人力噴霧機 (タンク容量13~16ℓ級・半自動ピストン式)	14
<hr/>	
2 駆ホイールトラクター (水冷、4 サイクル・ディーゼル)	
6. 25馬力級 (24馬力以上、1,100cc以上、燃料タンク19ℓ以上)	1,130
7. 30馬力級 (30馬力以上、1,290cc以上、燃料タンク28ℓ以上)	1,340
8. 40馬力級 (38馬力以上、1,700cc以上、燃料タンク30ℓ以上)	1,890
9. 50馬力級 (48馬力以上、2,200cc以上、燃料タンク50ℓ以上)	2,270
10. 60馬力級 (58馬力以上、2,250cc以上、燃料タンク55ℓ以上)	2,510
11. 70馬力級 (66馬力以上、3,100cc以上、燃料タンク60ℓ以上)	3,060
12. 80馬力級 (77馬力以上、3,900cc以上、燃料タンク60ℓ以上)	3,440
13. 90馬力級 (88馬力以上、4,200cc以上、燃料タンク80ℓ以上)	4,020
<hr/>	
4 駆ホイールトラクター (水冷、4 サイクル・ディーゼル)	
14. 25馬力級 (24馬力以上、1,100cc以上、燃料タンク19ℓ以上)	1,190
15. 30馬力級 (30馬力以上、1,290cc以上、燃料タンク28ℓ以上)	1,460
16. 40馬力級 (38馬力以上、1,700cc以上、燃料タンク35ℓ以上)	2,060
17. 50馬力級 (48馬力以上、2,200cc以上、燃料タンク50ℓ以上)	2,400
18. 60馬力級 (58馬力以上、2,250cc以上、燃料タンク55ℓ以上)	2,860
19. 70馬力級 (66馬力以上、3,100cc以上、燃料タンク60ℓ以上)	3,280
20. 80馬力級 (77馬力以上、3,900cc以上、燃料タンク60ℓ以上)	3,670
21. 90馬力級 (88馬力以上、3,900cc以上、燃料タンク80ℓ以上)	4,230
<hr/>	
ホイールトラクター用作業機	
22. オフセット式ディスク・ハロー (25馬力級用、16" × 12以上)	200
23. オフセット式ディスク・ハロー (30馬力級用、16" × 14以上)	210
24. オフセット式ディスク・ハロー (50馬力級用、18" × 16以上)	280
25. タンデム式ディスク・ハロー (50馬力級用、18" × 20以上)	410
26. タンデム式ディスク・ハロー (60馬力級用、18" × 20以上)	460
27. タンデム式ディスク・ハロー (70~90馬力級用、20" × 24以上)	630
28. ロータリー・ハロー (25馬力級用、爪数20以上)	240
29. ロータリー・ハロー (30馬力級用、爪数24以上)	340
30. ロータリー・ハロー (50馬力級用、爪数40以上)	460
31. ディスク・プラウ (25馬力級用、20" × 1以上)	180
32. ディスク・プラウ (30馬力級用、22" × 2以上)	250
33. ディスク・プラウ (50馬力級用、26" × 3以上)	350
34. 固定式トレーラー (25馬力級用、積載量750~1,000kg)	280
35. 固定式トレーラー (30馬力級用、積載量1,000kg以上)	390
36. 固定式トレーラー (50馬力級用、積載量2,000kg以上)	570

昭和63年度 主要機材の統一単価表

〔道路建設機械〕

(単位：千円)

主要機材と仕様		統一単価
1.	モーターグレーダー (80馬力級、土工板長3.1m級、スカリフアイヤ付き)	7,600
2.	モーターグレーダー (110馬力級、土工板長3.1m級、スカリフアイヤ付き)	9,000
3.	モーターグレーダー (135馬力級、土工板長3.7m級、スカリフアイヤ付き)	10,400
4.	モーターグレーダー (150馬力級、土工板長3.7m級、スカリフアイヤ付き)	11,830
5.	モーターグレーダー (180馬力級、土工板長4.0m級、スカリフアイヤ付き)	13,590
6.	モーターグレーダー (200馬力級、土工板長4.0m級、スカリフアイヤ付き)	16,880
7.	4輪式ショベル (0.25㎡級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	7,490
8.	4輪式ショベル (0.40㎡級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	9,500
9.	4輪式ショベル (0.60㎡級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	12,520
10.	クローラ式油圧ショベル (0.4㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	8,200
11.	クローラ式油圧ショベル (0.45㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	8,480
12.	クローラ式油圧ショベル (0.55㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	9,470
13.	クローラ式油圧ショベル (0.7㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	13,000
14.	クローラ式油圧ショベル (0.9㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	16,010
15.	クローラ式油圧ショベル (1.2㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	20,370
16.	湿地用三角履板付替式油圧ショベル (0.4㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	8,620
17.	湿地用三角履板付替式油圧ショベル (0.45㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	9,290
18.	湿地用三角履板付替式油圧ショベル (0.55㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	10,220
19.	湿地用三角履板付替式油圧ショベル (0.7㎡級、バックホウショベル、爪付き標準バケット装備)	13,450
20.	ブルドーザー (90馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	10,100
21.	ブルドーザー (120馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	13,640
22.	ブルドーザー (140馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	14,360
23.	ブルドーザー (160馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	18,500
24.	ブルドーザー (180馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	19,280
25.	ブルドーザー (200馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	21,700
26.	ブルドーザー (220馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	23,270
27.	ブルドーザー (320馬力級、リッパ・ROPSキャノピー付き)	30,010
28.	湿地ブルドーザー (90馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	10,160
29.	湿地ブルドーザー (120馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	13,960
30.	湿地ブルドーザー (140馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	15,920
31.	湿地ブルドーザー (160馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	19,070
32.	湿地ブルドーザー (180馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	20,270
33.	湿地ブルドーザー (200馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	22,490
34.	湿地ブルドーザー (220馬力級、ストレートチルトブレード・ROPSキャノピー付き)	26,100
35.	タンデム型振動ローラ (総重量2～3トン級、前後輪共鉄輪)	3,650
36.	タンデム型振動ローラ (総重量4トン級、前後輪共鉄輪)	4,460
37.	タンデム型振動ローラ (総重量6～7トン級、両輪振動・両輪駆動式)	7,230
38.	タンデム型振動ローラ (総重量8トン級、両輪振動・両輪駆動式)	7,930
39.	タンデム型振動ローラ (総重量10～11トン級、両輪振動・両輪駆動式)	11,330
40.	コンバインド型振動ローラ (総重量4トン級、前輪振動)	4,050
41.	コンバインド型振動ローラ (総重量6～7トン級、前輪振動)	6,610
42.	コンバインド型振動ローラ (総重量10～12トン級、前輪振動)	9,810
43.	コンバインド型振動ローラ (総重量15～17トン級、前輪振動・両輪駆動式)	13,710
44.	ロードローラ (総重量8トン級、マカダム式またはタンデム式、後輪駆動式)	4,780
45.	ロードローラ (総重量10トン級、マカダム式またはタンデム式、後輪駆動式)	5,100
46.	ロードローラ (総重量12トン級、マカダム式またはタンデム式、後輪駆動式)	5,580

昭和63年度 主要機材の統一単価表

[道路建設機械]

(単位：千円)

主要機材と仕様		統一単価
47.	タイヤローラ (総重量15~20屯級、後輪駆動式、締固め幅2m以上)	6,330
48.	タイヤローラ (総重量27~30屯級、後輪駆動式、締固め幅2m以上)	7,740
49.	タイヤローラ (総重量35屯級、後輪駆動式、締固め幅2.4m以上)	14,080
50.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・2.4~4m級、車輪式)	12,090
51.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・2.4~4m級、クローラ式)	10,130
52.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・2.5~4.5m級、車輪式)	17,120
53.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・2.5~4.5m級、クローラ式)	15,930
54.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・最大2.5~3m級、車輪式)	10,290
55.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・最大3m級、クローラ式)	9,370
56.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・最大5m級、クローラ式)	16,690
57.	アスファルトフィニッシャ (舗装幅・最大5~6m級、車輪式)	18,130
58.	アスファルトディストリビュータ (タンク容量4,000リッター級)	8,130
59.	アスファルトディストリビュータ (タンク容量6,000リッター級)	10,290
60.	ホイールローダ (0.5m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	3,990
61.	ホイールローダ (1.2m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	5,220
62.	ホイールローダ (1.4m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	6,670
63.	ホイールローダ (1.7m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	7,840
64.	ホイールローダ (2.3m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	9,550
65.	ホイールローダ (2.7m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	13,860
66.	ホイールローダ (4.5m <sup>3</sup> 級、4×4駆動式、爪付き標準バケット装備)	21,400
67.	エアコンプレッサ (可搬式3.7m <sup>3</sup> /min級)	1,240
68.	エアコンプレッサ (可搬式5m <sup>3</sup> /min級)	1,820
69.	エアコンプレッサ (可搬式7m <sup>3</sup> /min級)	2,130
70.	エアコンプレッサ (可搬式10m <sup>3</sup> /min級)	3,730
71.	エアコンプレッサ (可搬式17m <sup>3</sup> /min級)	5,010
72.	エアコンプレッサ (可搬式20m <sup>3</sup> /min級)	6,920
73.	エアコンプレッサ (可搬式25m <sup>3</sup> /min級)	9,080
74.	碎石プラント (可搬式40屯/時級)	38,060
75.	コンクリート混合プラント (45m <sup>3</sup> /時級、解体移設式)	26,820
76.	コンクリートポンプ (可搬式50m <sup>3</sup> /時級、圧送距離：水平500m以上×高100m以上)	14,260
77.	トラックミキサ (ドラム混合量5.0m <sup>3</sup> /時級)	7,970
78.	アスファルト混合プラント (可搬式40屯/時級、全自動バッチ式)	52,140
79.	路面補修用自動車 (瀝青舗装道路穴凹修理専用車)	11,960

昭和63年度 主要機材の統一単価表

[車 輛]

(単位：千円)

主要機材と仕様	統一 F O B 価 格
1. ピックアップ (2.5ℓクラス 4×4 2～3人乗り 最大積載量850kgクラス)	1,040
2. ピックアップ (2.5ℓクラス 4×4 5人乗り ダブルキャブ)	1,200
3. ピックアップ (4.0ℓクラス 4×4 3人乗り)	1,470
4. ステーションワゴン (2.5ℓクラス 4×4 5～8人乗り)	1,310
5. ステーションワゴン (4.0ℓクラス 4×4 5～9人乗り)	1,740
6. リヤダンプトラック (最大積載量4トクラス 4×2)	2,050
7. リヤダンプトラック (最大積載量4トクラス 4×4)	3,090
8. リヤダンプトラック (最大積載量6トクラス 4×2)	3,090
9. リヤダンプトラック (最大積載量8トクラス 4×2)	4,300
10. リヤダンプトラック (最大積載量8トクラス 4×4)	5,520
11. リヤダンプトラック (最大積載量12トクラス 6×4)	5,660
12. リヤダンプトラック (最大積載量12トクラス 6×6)	6,360
13. リヤダンプトラック (最大積載量15トクラス 6×4)	6,470
14. カーゴトラック (4トクラス 4×2)	1,840
15. カーゴトラック (6トクラス 4×2)	2,600
16. カーゴトラック (8トクラス 4×2)	2,780
17. カーゴトラック (12トクラス 4×2)	3,780
18. カーゴトラック (12トクラス 6×2)	4,110
19. カーゴトラック (12トクラス 6×4)	5,170
20. カーゴトラック (15トクラス 6×4)	5,960
21. トラクタ&低床セミトレーラ (18～25ト トラクタ4×2)	9,460
22. トラクタ&低床セミトレーラ (30～35ト トラクタ6×4 昇降用ランプ付)	11,620
23. トラクタ&低床セミトレーラ (40ト以上 トラクタ6×4 昇降用ランプ付)	14,590
24. 給・散水車 (最大積載量6ℓクラス 4×2 ポンプ及びスプレーバー付)	3,710
25. 給・散水車 (最大積載量6ℓクラス 4×4 ポンプ及びスプレーバー付)	4,880
26. 給・散水車 (最大積載量10ℓクラス 4×2 ポンプ及びスプレーバー付)	5,730
27. 給・散水車 (最大積載量14ℓクラス 6×4 ポンプ及びスプレーバー付)	6,660
28. 油タンカ (最大積載量6ℓクラス 4×2 ポンプ付)	3,910
29. 油タンカ (最大積載量10ℓクラス 4×2 ポンプ付)	6,090
30. 油タンカ (最大積載量10ℓクラス 6×4 ポンプ付)	6,720
31. 油タンカ (最大積載量14ℓクラス 6×4 ポンプ付)	7,260
32. ごみ収集車 (4㎡クラス 4×2 水平押し式)	3,700
33. ごみ収集車 (6㎡クラス 4×2 水平押し式)	4,960
34. ごみ収集車 (8㎡クラス 4×2 水平押し式)	6,690
35. ごみ収集車 (12㎡クラス 4×2 水平押し式)	7,770
36. ごみ収集車 (14㎡クラス 4×2 水平押し式)	8,960
37. マイクロバス (26人乗り 4×2)	2,000
38. バス (60人乗り 4×2 路線用)	7,860
39. バス (100人乗り 4×2 路線用)	8,620
40. 油圧式トラッククレーン (クレーン能力5～7ト 4×2 油圧式)	7,380
41. 油圧式トラッククレーン (レッカー) (レッカー能力10ト 6×4 油圧式)	17,800
42. 油圧式トラッククレーン (クレーン能力15ト 6×4 油圧式)	13,840
43. 油圧トラッククレーン (20～25ト)	14,680
44. トラッククレーン (クレーン能力25ト ラフレックタイプ 4×2 / 4×4)	24,000
45. トラッククレーン (HOLMES TYPE)	12,650

昭和63年度 主要機材の統一単価表

[車 輛]

(単位：千円)

主 要 機 材 と 仕 様		統 一 F O B 価 格
46.	モービルワークショップ (4トクラス 4×2)	5,870
47.	モービルワークショップ (4トクラス 4×4)	6,860
48.	モービルワークショップ (6トクラス 4×2)	7,650
49.	モービルワークショップ (6トクラス 4×4)	9,230
50.	モービルワークショップ (6トクラス 4×4 油圧クレーン付)	11,820
51.	モービルワークショップ (8トクラス 4×4)	12,210

#### 2-3-4 統一価格のカバーできる割合

本調査で得られた結果を資機材等調査の分野別にカバーできる割合を昭和63年度の資機材等調査の実績で見ると、以下の通りである。

$$\text{カバー率} = \frac{166 \text{ 分野の標準仕様・統一単価がカバーする品目数}}{\text{農機・建機・車輦分野の資機材等調査が対象とした要請品目数}}$$

農業機械分野	36品目	カバー率	63.3%
建設土木用機械分野	79品目	カバー率	74.7%
車輦分野	51品目	カバー率	81.8%
		平均	73.3%

上記の通り今回の調査で統一価格を設定した3分野 166品目で資機材等調査の要請に対するカバー率は73.3%である。このことは要請分野は多岐に渡っているように見えても、要請の大多数は同じ品目に集中していると言える。

今後調査対象品目を拡大し、カバー率を向上させれば資機材等調査の大幅な効率化を図ることが可能となる。

しかしながら要請される機材の中には特殊な機材や特注品に近い機材も含まれていることから、このカバー率を100%に上げるためには、図3-1からも分かるように調査対象品目を著しく増やす必要があり、その作成労力及びメンテナンスのコストと要請頻度（即ち統一価格を活用できる頻度）を比較した場合労力とコストの方が多くなることも予想される。このため対象品目の拡大はこの点を考慮して慎重に検討される必要がある。

（詳細は表 3-1のとおり）

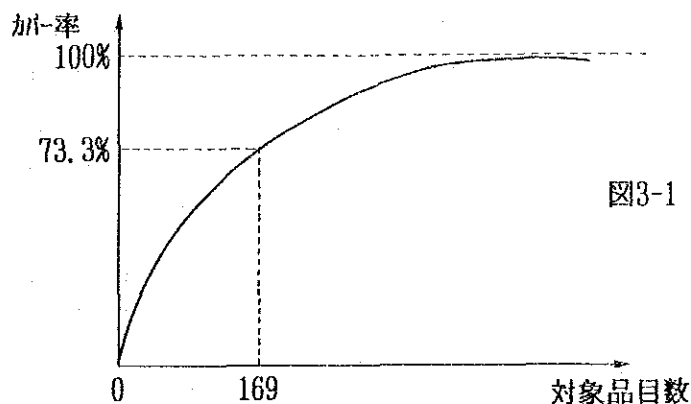




表3-1 設定統一単価の資機材別カバー率

(農業機械分野)

1988年12月現在

資 機 材 名	カバー率 (%)	備 考
1. 自動脱穀機 (定置式 1 t ~ 1.2 t)	5 0	
2. 歩行用トラクター (7馬力 ~ 12馬力)	5 0	
3. 背負い式動力散布機 (13ℓ ~ 14ℓ)	5 0	
4. 背負い式人力噴霧機 (13ℓ ~ 16ℓ)	5 0	
5. ホイールトラクタ (2 駆 25馬力 ~ 90馬力)	9 0	
6. ホイールトラクタ (4 駆 25馬力 ~ 90馬力)	9 0	
	<hr/> 6 3. 3 %	

## 〔道路建設機械分野〕

資 機 材 名	カバー率 (%)	備 考
1. ブルドーザー (90馬力~320馬力)	90	
2. 湿地ブルドーザー (90馬力~220馬力)	90	
3. モータグレーダ (80馬力~200馬力)	90	
4. ホイールローダ (4×4・0.5m <sup>3</sup> ~4.5m <sup>3</sup> )	90	
5. 4輪式ショベル (0.25m <sup>3</sup> ~0.6m <sup>3</sup> )	90	
6. クローラ式油圧ショベル (0.4m <sup>3</sup> ~1.2m <sup>3</sup> )	90	
7. 湿地用油圧ショベル (0.4m <sup>3</sup> ~0.7m <sup>3</sup> )	90	
8. タンデム型振動ローラ (2t~10t)	90	
9. コンバインド型振動ローラ (4t~15t)	90	
10. ロードローラ (8t~12t)	90	
11. タイヤローラ (15t~35t)	90	
12. 車輪式アスファルトフィニッシャー (2.5m~5m)	80	
13. クローラ式アスファルトフィニッシャー (3m~5m)	80	
14. アスファルトディストリビューター (4,000ℓ~6,000ℓ)	70	
15. エアコンプレッサー (3.7m <sup>3</sup> ~25m <sup>3</sup> )	60	
16. 砕石プラント 可搬式 40t/hクラス	50	
17. コンクリート混合プラント 45m <sup>3</sup> /hクラス	50	
18. コンクリートポンプ 50m <sup>3</sup> /hクラス	50	
19. トラックミキサ 5.0m <sup>3</sup> /hクラス	50	
20. アスファルト混合プラント 40t/hクラス	50	
21. 路面補修用自動車	40	
	74.7%	

〔車種分野〕

資 機 材 名	カバ-率 (%)	備 考
1. モ-ビル ワ-クシ-ップカ- (4 t ~ 6 t)	65	8 t 車クラスノンリスト
2. トラ-ククレ-ン (5 t ~ 25 t)	90	
3. 油タンカ- (4 kl ~ 14 kl)	65	10 kl クラスノンリスト
4. 給・散水車 (4 kl ~ 14 kl)	65	10 kl クラスノンリスト
5. リヤ ダンプトラ-ク (4 t ~ 15 t)	85	10 t クラスノンリスト
6. トラクタ & 低床セミトレ-ラ- (18 t ~ 40 t)	90	
7. カ-ゴ トラ-ク (4 t ~ 15 t)	85	10 t クラスノンリスト
8. バ ス (26人乗 ~ 100人乗)	90	
9. ゴミ収集車 (4 m <sup>3</sup> ~ 14 m <sup>3</sup> )	85	10 m <sup>3</sup> クラスノンリスト
10. ピ-クア-ップ (2.5 l ~ 4.0 l)	90	
11. ステ-ション ワゴン (2.5 l ~ 4.0 l)	90	
	= 81.8 %	

## 2-4 資機材の見積・照会等依頼先企業名簿

資機材の見積・照会等依頼先企業名簿は、以下の条件に基づいて作成した。

### (1) 農業機械分野

社団法人 日本農業機械化協会 農業形式検査・安全鑑定要領

1988年版・掲載企業150社を対象にアンケート表を送付し、回答のあった75社の名簿を作成した。

### (2) 建設土木機械分野

国際協力事業団 農業開発協力部作成

機材ガイドブック昭和62年3月版・掲載企業69社を対象にアンケート表を送付し、回答のあった47社の名簿を作成した。

### (3) 車輛分野

社団法人 自動車工業振興会 自動車ガイドブック1987～1988年版・掲載企業14社を対象にアンケート表を送付し、回答のあった13社の名簿を作成した。

### (4) 調査項目

資機材の見積・照会等依頼先企業名簿作成にあたり、農業機械・建設土木機械・車輛の3分野の各社に別表3-4のようなアンケート調査表を送付した。

#### ① 見積可能品目

見積可能機材名を記載するにあたり、各社へは販売実績順に10品目のみの記載を依頼した。

#### ② 事務所・代理店の所在国名

事務所・代理店所在国名記載に当り、各社へは別表3-2のODA供与対象国のうち、特に無償資金協力実績の多い別表3-3の国々を対象として調査した。

表3-2 政府開発援助供与対象国

I. 東アジア地域

- (1) インドネシア
- (2) ヴェトナム
- (3) 韓国
- (4) カンボディア
- (5) シンガポール
- (6) タイ
- (7) 中国
- (8) ビルマ
- (9) フィリピン
- (10) ブルネイ
- (11) マレーシア
- (12) モンゴル
- (13) ラオス

II. 東南アジア地域

- (1) インド
- (2) スリランカ
- (3) ネパール
- (4) パキスタン
- (5) バングラデシュ
- (6) ブータン
- (7) モルディヴ

III. 中近東地域

- (1) アフガニスタン
- (2) アラブ首長国連邦
- (3) アルジェリア
- (4) イエメン
- (5) イスラエル
- (6) イラク
- (7) イラン
- (8) エジプト
- (9) オマーン
- (10) カタール
- (11) クウェイト
- (12) サウディ・アラビア
- (13) ジョルダン
- (14) シリア
- (15) スーダン
- (16) テュニジア
- (17) トルコ
- (18) バハレーン
- (19) 南イエメン
- (20) モロッコ
- (21) リビア
- (22) レバノン

IV. アフリカ地域 (サハラ以北を除く)

- (1) アンゴラ
- (2) ウガンダ
- (3) エチオピア
- (4) ガーナ
- (5) カーボ・ヴェルデ
- (6) ガボン
- (7) カメルーン
- (8) ガンビア
- (9) ギニア
- (10) ギニア・ビザオ
- (11) ケニア
- (12) コモロ
- (13) コンゴ
- (14) ザイール
- (15) サントメ・プリンシペ
- (16) ザンビア
- (17) シェラ・レオーネ
- (18) ジブティ
- (19) ジンバブエ
- (20) スワジランド
- (21) セイシャル
- (22) 赤道ギニア
- (23) セネガル
- (24) 象牙海岸
- (25) ソマリア
- (26) タンザニア
- (27) チャード
- (28) 中央アフリカ
- (29) トーゴ
- (30) ナイジェリア
- (31) ニジェール
- (32) ブルキナ・ファソ
- (33) ブルンディ
- (34) ベナン
- (35) ボツワナ
- (36) マダガスカル
- (37) マラウイ
- (38) マリ
- (39) モザンビーク
- (40) モーリシャス
- (41) モーリタニア
- (42) リベリア
- (43) ルワンダ
- (44) レソト

V. 中南米地域

- (1) アルゼンティン
- (2) アンティグア・バーブーダ
- (3) ヴェネズエラ
- (4) ウルグァイ
- (5) エクアドル
- (6) エル・サルヴァドル
- (7) ガイアナ
- (8) キューバ
- (9) グァテマラ
- (10) グレナダ
- (11) コスタ・リカ
- (12) コロンビア
- (13) ジャマイカ
- (14) スリナム
- (15) セント・ヴィンセント
- (16) セント・クリストファー・ネイビス
- (17) セント・ルシア
- (18) チリ
- (19) ドミニカ国
- (20) ドミニカ共和国
- (21) トリニダッド・トバゴ
- (22) ニカラグァ
- (23) ハイティ
- (24) パナマ
- (25) バハマ
- (26) パラグァイ
- (27) バルバドス
- (28) ブラジル
- (29) ベリーズ
- (30) ペルー
- (31) ボリヴィア
- (32) ホンデュラス
- (33) メキシコ

VI. 大洋州地域

- (1) ヴァヌアツ
- (2) キリバス
- (3) クック諸島
- (4) ソロモン諸島
- (5) トゥヴァル
- (6) トンガ
- (7) ナウル
- (8) 西サモア
- (9) パプア・ニューギニア
- (10) フィジー
- (11) 国連信託米統治地域

VII. ヨーロッパ地域

- (1) サイプラス
- (2) ギリシャ
- (3) マルタ
- (4) ポルトガル
- (5) ユーゴスラヴィア

出典：我が国の政府開発援助（国別実績）  
1988年外務省経済協力編

表3-3 国名一覧表

事務所

	アジア地域	中近東地域	アフリカ地域	中南米地域	大洋州地域
1	インドネシア	アルジェリア	ウガンダ	ヴェネズエラ	ヴァヌアツ
2	スリ・ランカ	イエメン	エチオピア	エル・サルヴァドル	キリバス
3	タイ	エジプト	ガーナ	ドミニカ国	クック諸島
4	中国	スーダン	ガボン	ドミニカ共和国	ソロモン諸島
5	ネパール	チュニジア	カメルーン	ハイティ	トゥヴァル
6	パキスタン	モロッコ	ガンビア	パラグアイ	トンガ
7	バングラディッシュ		ギニア	ペルー	西サモア
8	ビルマ		ギニア・ビサオ	ボリヴィア	バブア・ニューギニア
9	フィリピン		ケニア	ホンジュラス	フィジー
10	ブータン		コモロ		米信託統治領
11	ラオス		コンゴ		
12			ザイール		
13			サントメ・プリンシペ		
14			ザンビア		
15			シエラ・レオネ		
16			ジブティ		
17			ジンバブエ		
18			赤道ギニア		
19			セネガル		
20			象牙海岸		
21			ソマリア		
22			タンザニア		
23			チャード		
24			中央アフリカ		
25			トーゴ		
26			ナイジェリア		
27			ニジェール		
28			フリキナ・フィソ		
29			ブルンディ		
30			ベナン		
31			マダガスカル		
32			マラウイ		
33			マリ		
34			モザンビーク		
35			モーリタニア		
36			リベリア		
37			ルワンダ		
38			レソト		
39					
40					

国名一覧表

代理店

	アジア地域	中近東地域	アフリカ地域	中南米地域	大洋州地域
1	インドネシア	アルジェリア	ウガンダ	ヴェネズエラ	ヴァヌアツ
2	スリ・ランカ	イエメン	エチオピア	エル・サルヴァドル	キリバス
3	タイ	エジプト	ガーナ	ドミニカ国	クック諸島
4	中国	スーダン	ガボン	ドミニカ共和国	ソロモン諸島
5	ネパール	チュニジア	カメルーン	ハイティ	トゥヴァル
6	パキスタン	モロッコ	ガンビア	パラグアイ	トンガ
7	バングラディッシュ		ギニア	ペルー	西サモア
8	ビルマ		ギニア・ビサオ	ボリヴィア	バブア・ニューギニア
9	フィリピン		ケニア	ホンジュラス	フィジー
10	ブータン		コモロ		米信託統治領
11	ラオス		コンゴ		
12			ザイール		
13			サントメ・プリンシペ		
14			ザンビア		
15			シエラ・レオネ		
16			ジブティ		
17			ジンバブエ		
18			赤道ギニア		
19			セネガル		
20			象牙海岸		
21			ソマリア		
22			タンザニア		
23			チャード		
24			中央アフリカ		
25			トーゴ		
26			ナイジェリア		
27			ニジェール		
28			ブリキナ・ファソ		
29			ブルンディ		
30			ベナン		
31			マダガスカル		
32			マラウイ		
33			マリ		
34			モザンビーク		
35			モーリタニア		
36			リベリア		
37			ルワンダ		
38			レソト		
39					
40					



表3-4 製造会社カード

No. 1

区分	建機
----	----

昭和63年10月1日現在

ふりがな		電話番号	- -
会社名		FAX 番号	- -
ふりがな			
所在地	〒		

総括部署

部署名	担当者名	電話番号	FAX 番号
		- -	- -

担当部署

部署名	担当者名	電話番号	FAX 番号
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -
		- -	- -

海外事業所及び代理店の有無		有		無
---------------	--	---	--	---

販売会社カード

No. 2

区分	建機
----	----

昭和63年10月1日現在

ふりがな		電話番号	-- --
会社名		FAX 番号	-- --
ふりがな			
所在地	〒		

総括部署

部署名	担当者名	電話番号	FAX 番号
		-- --	-- --

担当部署

部署名	担当者名	電話番号	FAX 番号
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --
		-- --	-- --

海外事業所及び代理店の有無		有		無
---------------	--	---	--	---



### 第3章 将来的課題

#### (1) 調査対象分野の拡大

本調査は、農業機械分野・建設土木用機械分野・車輛分野の3分野のみを対象としたが、今回の対象以外にも要請の多い医療機材・研究所用実験機材・地下水開発機材・水産機材等まだ多くあり、今後この分野についても同様な調査を必要としており、対象分野の拡大が望まれている。

#### (2) 資料編のデータの更新

国内製造メーカーの製品は、多くの場合メジャー・マイナーなモデルチェンジを頻繁に行っており、これに伴って仕様・価格も変化して行くことから、パーソナルコンピュータに入力してある標準仕様・統一単価データは、モデルチェンジに合わせてアップツールドイトにデータの更新をすることが望ましい。

#### (3) 実績データのフィードバック

メーカー見積は、仕向地（アフターケア体制の有無とそのメーカーにとっての当該国の重要度）・発注時期（受注在庫の多少）、発注数量等の見積条件によって、その価格は、大幅に変動するものであるが、調査の性格上、これら見積条件を提示できないがために、今回調査で取りつけた見積価格は通常の入札価格と比べても割高になっている。このため統一価格は、品目毎に適用裁定率（割引率）を検討しメーカーからの平均見積価格に裁定率を掛けることにより算定した。

しかしながら、前述の如く価格は見積条件によって変動する要因を持っているため、今回調査結果による統一価格で積算された案件の入札結果をフォローし、将来の価格改訂、適用裁定率の見直しに、フィードバックすることが重要である。

又、この際には、単品で発注する場合と、50台とか100台とかある程度まとまった量を発注する場合、つまり発注量の多少に係る割引率並びに統一価格が本当に一つの統一価格で将来にも通用するのがあるいはアフターケア体制の有無等の理由により地域によっては2重価格的なものも導入する必要があるのかないのかなども検討して行くことが必要と思われる。

#### (4) 裁定率の検討

今回標準仕様・統一価格作成のための調査作業が開始された時点で、既に63年度上半期分の資機材等調査の成果品が出ており、実際に無償案件が実施されていた。

そしてこの中には、今回調査の対象となった 166品目の何点かが入っていたことから、本件調査開始時点で既に資機材等調査の実績に含まれていた品目については、当該年度における単価統一の観点から、資機材等調査の実績価格を優先して採用した。このため統一価格の積算に当たって適用された裁定率が、一部機材については統一的思想に基づいていないものがある。このため将来標準仕様・統一価格データが更新される際に下記の裁定率に従って整理されることが望ましい。

### 裁定率の区分内容

- ①既指定機材とは、昭和63年度に統一単価が指定してあるもの。
- ②未指定機材とは、既指定以外のもの。
- ③価格競争著しい機材とは、前年度の見積価格と実勢価格に20%程度以上の差異があったか、または特に指定されたもの。
- ④標準的な汎用性機材とは、前年度以来市販機材として公表されているもの。
- ⑤非量産的な機材とは、比較的汎用的な機材または特に指定されたもの。

### 各機材毎の適用裁定率

1) 農業機材	①既指定機材の裁定率は	①価格競争著しい機材	0.80
		②標準的な汎用性機材	0.85
		③非量産的な機材	0.90
	②未指定機材の裁定率は		0.90
2) 建設機材	①既指定機材の裁定率は	①価格競争著しい機材	0.80
		②標準的な汎用性機材	0.85
		③非量産的な機材	0.90
	②未指定機材の裁定率は		0.90
3) 各車輛類	①既指定機材の裁定率は	①価格競争著しい機材	0.80
		②標準的な汎用性機材	0.85
		③非量産的な機材	0.90
	②未指定機材の裁定率は		0.90

(5) 統一価格未設定資機材に対する価格認定の考え方

1) 従来の方法

統一単価未設定の資機材価格については、その要請案件の都度、当該資機材の製造メーカー3社以上に対し、必要数量・使用国及び統一所定条件の見積依頼書を発信、所定の期日までに到着した各見積回答書のうち、適正仕様で記載内容が妥当なものを見積価格順に集計、そのうちの最低価格を当該機材の「適用単価」として採用していた。

2) 今後の検討事項

統一単価未設定の資機材は、今まで比較的に汎用的な資機材であるか、或いは先進国間では汎用的であっても発展途上国では比較的に必要な資機材である。しかし今後は、それら資機材の要請頻度に対応して適切な価格設定を行うこととする。平成元年度は次の「暫定統一単価」及び新「統一単価」による2通りの方法が考えられる。

① 暫定統一単価

平成元年度に初めて要請のあった資機材、または同一仕様の資機材で累積要請が5件までの場合は、「暫定統一単価」として設定し、これを適用する。

これは、暫定統一単価から新統一単価へ以降する際に必要なデータの収集の必要性から経験上5件とした。

暫定統一単価の適用方法は、従来の方法と同様にその都度各製造メーカー3社以上に見積依頼書を発信し、適性仕様で記載内容が妥当なものを集計し、それらの見積金額の平均値を算出し、これに裁定率0.90を乗じて得た価格を暫定統一価格とする。この適用方法は、資機材等調査を実施した経験上5案件の調査で得られる製造メーカー3社以上の見積金額データ15件以上あれば適切な統一単価の設定が可能であるところから要請件数5件まで適用する。

② 新「統一単価」

平成元年度に累積要請件数が6件以上の場合は、①の暫定統一単価設定で得た製造メーカー3社以上の見積金額の総合計値を照回件数で除して得た平均単価を基礎単価として採用し、前項(3)裁定率の区分内容の基準に基づき、それぞれの裁定率を乗じた金額を新「統一単価」として設定し、昭和63年度

に統一単価が指定してある資機材に追加し、全調査案件に適用するものとする。









JICA